

令和5年度《学校経営計画》

名張市立比奈知小学校

学校長 豊田 憲幸

1 学校教育目標

いきいき つながる ひなちっ子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像

○学校像	すべての子どもが、「おはよう」から「さようなら」まで、安心して学べる比奈知小学校学校に行きたい（子どもが学ぶ喜びに満ち、いきいき楽しく通う学校） 学校に行かせたい（子どもたちの人権が大切にされ、自他の人権を守るために主体的にいきいき行動する学校に、保護者が行かせたいと感じる学校） 学校を活かし、発展させたい（教職員、保護者、地域がつながり、教育活動に積極的にいきいきと参加・協働したいと思える開かれた学校）
○児童・生徒像	・自信をもって、何事にも積極的にチャレンジできる子 ・自分もなかまも大切にする子 ・自ら考えて表現し、行動できる子
○教職員像	・子どもの思いを大切にし、子どもの成長と将来の幸せを願い、学び続ける教職員 ・目標に向かって創意工夫し、協働する教職員 ・組織の一員であることを自覚し、保護者や地域からの信頼と期待に応える教職員 ・心身の健康に配慮し、効果的な業務遂行を心がけ、勤務時間縮減に務める教職員
○保護者・地域像	・連携を大切にし、信頼のもとに支え合い、それぞれの立場で主体的に子どもの成長を支える保護者・地域

3 学校の現状

○人権総合学習を進めることで、子どもにつけたい力を明確にすることができ、学校生活に活かすことができてきた。自尊感情を高め、自ら考え、解決に向けて主体的に行動する力をつけることが課題である。

○ペア・グループ学習の実践により自分の思いを伝えようとする児童は増えたが、伝えたいことを的確に表現・綴ることを通して、学びの定着をはかるなど授業改善が必要である。

○児童の課題が多様化しており、個々に対応した適切な支援・指導が今後とも必要である。

○地域の方々は協力的で、地域学習等のゲストティーチャーとして多くの方に関わっていただいている。

本年度の改善方策

○人権教育カリキュラムの実践・検証を継続して進める。

○学級・児童会・縦割り班の活動を見直し充実させることで、自治的・自発的な行動への意欲を育てる。

○授業実践と研修を通して、授業力・指導力の向上に努める。少人数指導やTT・個別指導等を充実することで、学習意欲の向上とすべての児童の学力保障に取り組む。

○教科担任制を取り入れることにより、多面的な児童理解に重きを置く。児童に関する情報共有等を通して、教師間の連携を深めていく。また、教育相談の充実を図る。

○UDを基盤にした特別支援教育の充実を図る。

○関係機関との連携を密にし、子どもの自立に向けた支援や環境づくりに努め、児童・保護者・家庭を支える。

○めざす子ども像を教職員と地域で共有し、コミュニティ・スクールを基盤にした小中一貫教育の取組を推進する。

○教職員がいきいきと働ける職場とするため、時間外労働時間の削減に努めるとともに、月2回以上の定時退校日を設ける。

4 重点的な取組事項

番号	内 容	実 施 期 間				
		2	3	4	5	6
1	人権学習と道徳で育てる豊かな心と人間関係づくり	○	○	○	○	
2	基礎学力定着と学習意欲の向上に向けた授業改善	○	○	○	○	
3	保護者・地域との連携（コミュニティ・スクール）の推進	○	○	○	○	

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		人権学習と道徳で育てる豊かな心と人間関係づくり
A	今年度の成果目標	自分の生き方を見つめる人権総合学習を核とし、人権を大切にした学習を進める中で児童の自己肯定感を高め、行動化、人間関係づくりを図る。
「自分にはよいところがある」「人権学習や道徳で学んだことを生活に生かしている」…85%		
B	目標実現に向けた取組	
具体的な方策		
①		人権教育カリキュラム（特に部落問題・障がい者の人権問題）の実践・検証を通して、子どもに実践的な行動力をつける。
②		教科担任制を導入し、複数の教師による協力的指導や、日記・綴る・家庭訪問・教育相談を通して、子ども理解に努め、子どもたちの互いのくらしや思いを知り合い、安心して過ごせる環境づくりを進める。
③		達成感を味わえる授業や活動を行い、自己肯定感を高める取組を進める。
④		学級会・委員会・縦割り班の活動を、より自治的な活動にしていく。
⑤		教職員自らが人権意識・知識を高める研修に積極的に参加し、研鑽を積む。
重点的な取組事項－2		基礎学力定着と学習意欲の向上に向けた授業改善
A	今年度の成果目標	すべての児童の学びを保障する。
「分かりやすい授業に努めている」「意欲的に学習に取り組んでいる」「家庭学習をきちんとやっている」…90%		
B	目標実現に向けた取組	
具体的な方策		
①		少人数授業やICTを活用するなど、指導方法等を工夫改善することにより、ともに学び合うことを大切にしながら、個に応じた指導を進め、「わかった、できた」を実感できる授業を展開する。
②		効果的なペア学習・グループ学習等を積極的に取り入れ、学ぶ楽しさを味わわせ、主体的で対話的に学ぶことができる児童を育てる。
③		名中校区小中一貫教育にある「学びの心得」を大切に取り組み、学習スキル（返事、正しい姿勢、話を聴く態度、学習ルール）や、集団行動の規律（挨拶をする、時間を守る、言葉づかい）を身につけ、自らが高まろうとする児童を支援する。
④		朝の読書タイムやパワーアップ学習の継続により、語彙力・計算力の向上を図る。
⑤		家庭学習の内容を工夫し、保護者と協働し、「家庭学習・自主学習の手引き」に基づいて、家庭での学習習慣を定着させる。
⑥		体育の授業で、全学年が同じ内容の運動に取り組み、運動習慣の定着と体力の向上を図る。
重点的な取組事項－3		保護者・地域との連携（コミュニティ・スクール）の推進
A	今年度の成果目標	保護者・地域と連携を密にし、地域の教育力を生かす。
「教育方針がよく理解できる」「悩みや相談に丁寧に対応している」…85%		
B	目標実現に向けた取組	
具体的な方策		
①		あいさつ運動に取り組み、地域の方々とつながる児童を育成する。
②		子どもの様子を家庭訪問等で伝え保護者の思いを聴きとり、子どものことでつながり合う関係を結ぶ。
③		毎日の「児童観察」や「がんばり点検表」を活用し児童の生活リズムや家庭学習の定着を図る。また生活習慣・学習習慣について家庭への啓発に取り組む。
④		小中一貫教育を推進するとともに、学校運営協議会を活用し、保護者・地域、教職員が連携・協働し、子どもたちの成長を支えていく学校づくりを進める。

6 学校における働き方改革の推進に向けた取組

上限時間に基づく目標		
成果指標①	1人当たりの月平均時間外労働	25時間以下(30時間以下の範囲)
	年360時間を超える時間外労働者数	0人 (変更不可)
	月45時間を超える時間外労働者の延べ人数	0人 (変更不可)
具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・PC(ペーパーレスによる)会議の推進 ・個人の退校時刻目標の設定 ・管理職による呼びかけ ・月2回の定時退校日の設定 	
休暇取得促進の目標		
成果指標②	1人当たりの年間休暇取得日数	13日以上(各学校で設定)
具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中の個人の休暇取得目標の設定 	
学校独自の取組		
活動指標	設定した日の定時に退校できた職員の割合	95%以上
	放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合	50%以上
	放課後に開催して90分以内に終了した会議の割合	100%
具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職による呼びかけ ・年度初めに『定時退校ための心得』を教職員に話をするとともに配付。一人ひとりの意識改革を図る。 ・年間予定、月予定を意識し、見通しをもって取り組む。 ・長期休暇中の年休取得の奨励・促進 	